

## 第203回（令和3年7月11日施行）

### 2級商業簿記

#### 第1問

本問は、基本的な取引における仕訳の理解を問うものである。

1. 資本準備金勘定は、株式の発行に伴う払込金額のうち、資本金に計上しない額を処理する際に用いる。本問では、「払込金額のうち1株につき2分の1は資本金として計上しないことにした」点に注意して金額を計算する。会社設立時の諸費用は、創立費に記入する。
2. クレジットカードにより商品を販売したときに生じる債権は、クレジット会社に対するものであり、得意先に対するものではない。したがって、通常の売掛金とは区別して、クレジット会社への債権を示す、クレジット売掛金勘定で処理する。なお、本問は、クレジット会社に支払う手数料について、販売時に支払手数料勘定で処理する方法によっている。
3. 償還請求中の手形債権は、受取手形勘定から不渡手形勘定に振り替えられているので、回収不能となったときは、貸倒引当金と相殺し、不足額があれば貸倒損失として費用計上する。
4. 前期末に繰り延べた受取家賃は、当期の収益となるので、期首に決算整理仕訳と貸借反対の仕訳を行い、収益に戻す処理を行う。
5. 決算時において、外貨預金は、決算時の為替相場で円換算する。換算によって生じた為替差額は、為替差益勘定もしくは為替差損勘定で処理する。本問の場合は、為替差益勘定となる。  
決算日における為替相場は、\$ 1あたり¥112 であるので、円換算した外貨預金は、¥5,600,000（＝\$ 50,000×¥112）となる。帳簿価額は¥5,400,000であったので、差額の¥200,000 が為替差益となる。
6. 消費税および地方消費税の還付額については、未収還付消費税勘定を用いる。
7. 株式会社における損益の振替えに係る簿記処理の問題である。利益（損失）が計上されたときには、当該金額を損益勘定の借方（貸方）に記入するとともに、繰越利益剰余金勘定の貸方（借方）に記入する。

#### 第2問

本問は、会計学でいう貸借対照表等式および損益計算書の利益計算式が、複式簿記ではどのように現れるか、特に当期純利益の計算構造、管理上必要な売上総利益がどのように計算されるのかを問うものである。

本問では、仕入勘定で売上原価が計算されること、収益・費用に関する勘定は損益勘定に振り替えられること、株式会社の会計では損益勘定残高は繰越利益剰余金勘定に振り替えられることなどについての理解が必要である。

解答に際しては、売上総利益は、売上勘定残高から仕入勘定残高を控除することで計算できる。また、仕入勘定と売上勘定の残高を損益勘定へ振り替えらうとすると、損益勘定残高より当期純利益を計算する。この損益勘定残高は、繰越利益剰余金勘定へ振り替えられる。期末資本金は、期首資本金に増資金額を加算して計算できる。

問題用紙には、複数の空欄があることから、どの空欄から計算したり、語句を埋めたりしたらよいかについて考えることが必要である。

### 第3問

本問は、商品有高帳の理解と純売上高、売上原価および売上総利益をどのように算出するかを問うものである。

移動平均法は単価の異なる商品を受け入れたそのつど、平均単価を求め、これを払出単価とする方法である。商品有高帳は、受入欄、払出欄ともに原価で記録する。

平均単価は、受入価額と受入直前の残高価額の合計を受入数量と残高数量の合計で除して求める。受入欄に記入した仕入商品の返品（仕入戻し）は、払出欄に記入するか、または受入欄にマイナス記入（赤記）し、残高欄の数量と金額を減額して、再度平均単価を求める。払出欄に記入した販売商品の返品（売上戻り）は、受入欄に記入するか、または払出欄にマイナス記入（赤記）する。払出直後の売上戻りの場合、平均単価は変わらない。

純売上高は、総売上高から返品等の金額を差し引きして算出される。売上原価は、商品有高帳で払出数量と単価を乗じて求める。その際、上記の仕入戻しや売上戻りの金額を調整することを忘れてはならない。

### 第4問

本問は、3伝票制における伝票の記入方法および仕訳集計表の作成を問うものである。

入金伝票には借方が現金となる取引が、相手勘定科目のみを記入して起票されている。また、出金伝票には貸方が現金となる取引が、相手勘定科目のみを記入して起票されている。振替伝票には、入出金以外の取引を借方、貸方に記入して起票されている。

入金伝票、出金伝票は省略された相手勘定科目に注意して、また振替伝票は借方、貸方の勘定科目に注意して、仕訳集計表に集計する。なお、補助簿への転記は、個別の伝票から個別に行われるが本問では扱っていない。

本問の①では、仕入代金や売上代金の全額をいったん掛け取引として処理するよう求めていることから、売掛金勘定と買掛金勘定に留意して、解答することが必要である。

### 第5問

本問は、付記事項と決算整理事項に基づいて記録の修正を行った上で、損益計算書と貸借対照表を精算表上で作成する方法を問うものである。

- ① 付記事項と決算整理事項を、期中に記録がある勘定は金額のみ、記録がない勘定は勘定科目を記入した上で整理記入欄に貸借記入する。
- ② 収益・費用の勘定に、整理記入欄の修正額を加減し、損益計算書欄に書き移す。
- ③ 資産・負債・純資産（資本）の勘定に、整理記入欄の修正額を加減し、貸借対照表欄に書き移す。
- ④ 損益計算書欄の合計額を計算し、貸方の収益合計が小さい場合は当期純損失が生じ、貸方に記入し、合計額で計算結果を照合する。当期純損失は純資産（資本）の減少であるから貸借対照表欄の借方に書き移し、貸借対照表欄の合計額の一致によって当期純損失を検証する。